

学校名 南城市立玉城中学校	連絡先 TEL : 098-948-7105 Eメール : tamachu-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

1 実践事項 研究指定校 タイトル：「安心して通える居場所作りの取り組み」 ～校内自立支援教室「チャレンジルーム」の在り方～

はじめに

今年度、沖縄県教育委員会（義務教育課）からの委託で南城市教育委員会から研究指定校として、「校内自立支援室事業」を受けることとなった。背景には、複雑な理由により不登校生や気になる生徒が多いため、その課題解決として本事業を行うこととした。

まず、校内自立支援室の経営計画を作成し、取り組むこととした。

2 実践内容

(1) チャレンジルームの経営計画（経営方針・入室対象者・組織図の紹介）

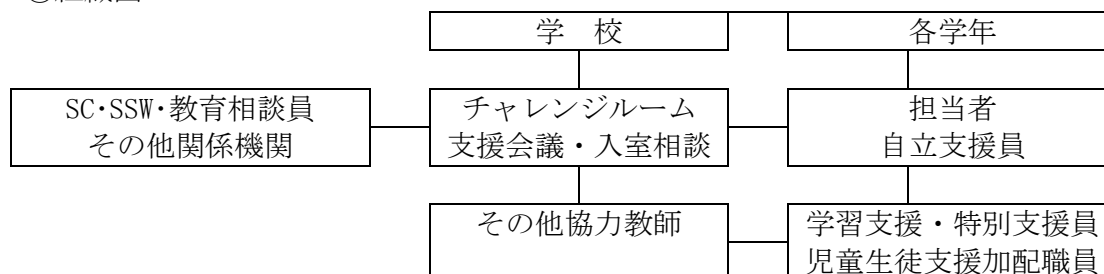
- ① 諸課題を抱える生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、個々の課題の状況に応じて必要な支援を行い、当該生徒にとって安心できる場とする。
- ② 諸課題を抱える個々の生徒の休養の必要性を踏まえ、当該生徒の状況に応じた学習活動が行われることとなるよう、生徒及び保護者に対する必要な情報の提供、助言その他の必要な措置を講ずる。
- ③ 「チャレンジルーム」は、元視聴覚教室（3階）に設置し、1つの教室として扱う。
- ④ 「チャレンジルーム」に担当者を置き調整連携役とする。
- ⑤ 「チャレンジルーム」に常駐する自立支援員を1名配置する。
- ⑥ 「チャレンジルーム」の担当者は、関係する支援職員（学習支援員・特別支援員・SSW・SC・教育相談員・その他協力教師）と連携し生徒の支援を行う。

(2) 入室対象者

- ① 心理的要因等によって登校できない生徒や入室（長時間も含む）が困難な生徒
- ② 学校適応を促進するため、「チャレンジルーム」での指導が望ましいと判定された生徒

(3) 組織図

① 組織図



(4) チャレンジルーム利用の心得

- ① 自分なりの目標を持ち、目標に向かった活動に取り組むこと
- ② 課題や自分の目標に合わせた学習やその他の活動に取り組むこと
- ③ 出席（早退）、遅刻（遅れる）、欠席（休む）などの連絡をすること
- ④ 入室したら、日誌（目標や予定等）を記入し、諸活動に取り組むこと

- ⑤先生方の指示に従った行動をとり、他の生徒に迷惑をかけること
- ⑥行動する前に自分の思いを丁寧に伝えること（お互い確認しあう）
- ⑦帰る前に日誌に1日の振り返りを記入し、提出してから帰ること

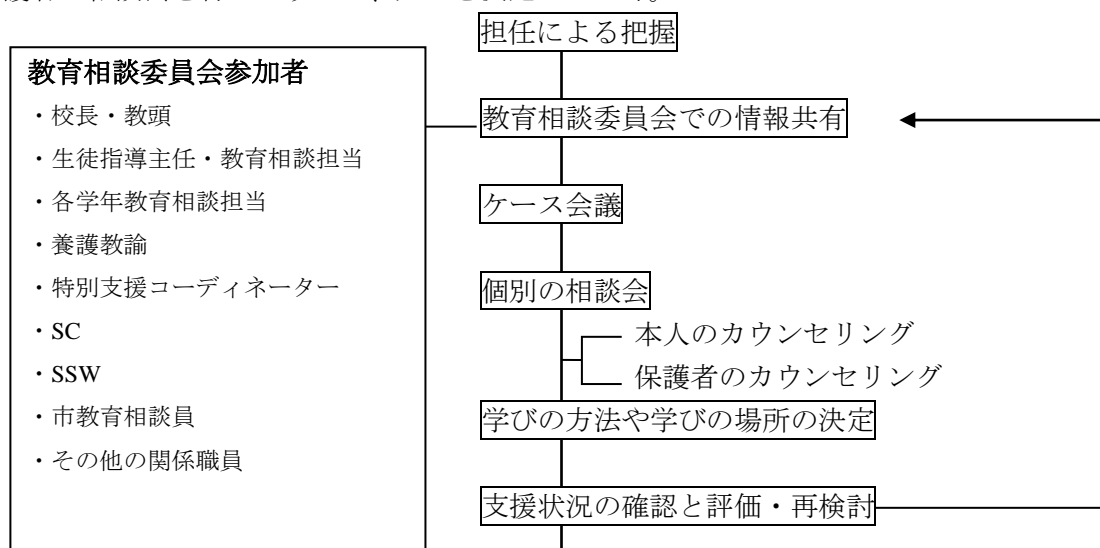
※ チャレンジルームの組織委員会で話し合い、校長先生が決定する

(5) チャレンジルームの利用の約束

- ① 校内自立支援教室は社会的自立や学級復帰に向けた一時的な避難場所です。
自分なりの目標を持ち、目標に向かった活動に取り組みます。
- ② 生徒本人・保護者は学級担任と連絡を取り合い、欠席などの連絡をします。
- ③ 「チャレンジルーム利用の心得」に従い、生徒の迷惑にならないようにします。
※ 約束を守れない場合は、組織委員会で検討の上、利用停止になります。

(6) チャレンジルーム入室までの流れ（個人の居場所の設定）

本校において、不登校の生徒や気になる生徒の対応（組織的な取組の流れ）は下記のようになっている。この流れに沿って、チャレンジルームの利用を提案し、希望があった生徒、保護者と相談会を行ったうえで、入室を決定していく。

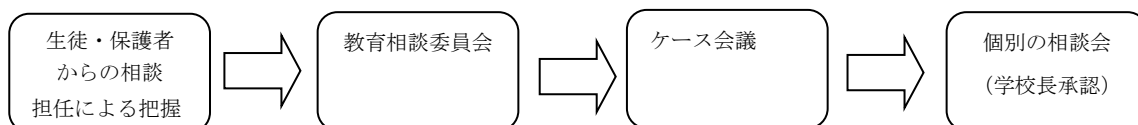


入室までの手順で大切にしたいことは、ケース会議で本人の居場所として適しているかどうかをチームとして検討することである。また、生徒自身が利用の目的を持ち、主体的に利用できるように、個別の相談会において本人の選択権を大切にするすることである。相談会には管理職が参加することでその場で利用について決定できるというメリットもある。

<生徒入室までの手順>

- ① 本人、保護者からの相談、または担任による把握。
- ② 教育相談委員会で当該生徒の情報共有を行う。
- ③ 校長、担任、学年主任、教育相談担当等でケース会議を持つ。
- ④ 個別の相談会で学校長の承認を得る。

* 急を要する場合は、適応指導教室で受け入れながら、後日手順に従い面談を行う。



(7) 心の安定を図る取り組み

- ①スライム作り
- ②折り紙

- ③ミサンガ作り
- ④掲示物作り
- ⑤ストローで星作り
- (8) 時間割の作成
- (9) 学習について
 - ①課題学習
 - ②基礎学習
- (10) 基本的生活習慣の改善
 - ①健康チェック
 - ②今日一日の流れの確認
 - ③日誌の提出

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

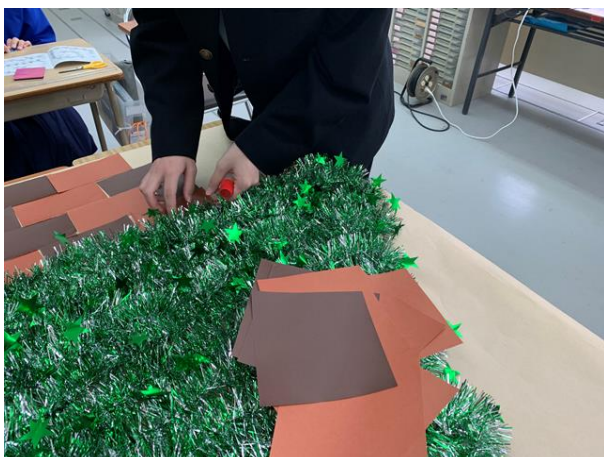


○それぞれ生徒の状態に合わせて個室で過ごしたり、大部屋で過ごしたりしてオンラインで授業を受けたり課題に取り組んでいる。

自活の時間を設けて気持ちの切り替えのための時間にする生徒もあり、各々で目的を決めて過ごしている。

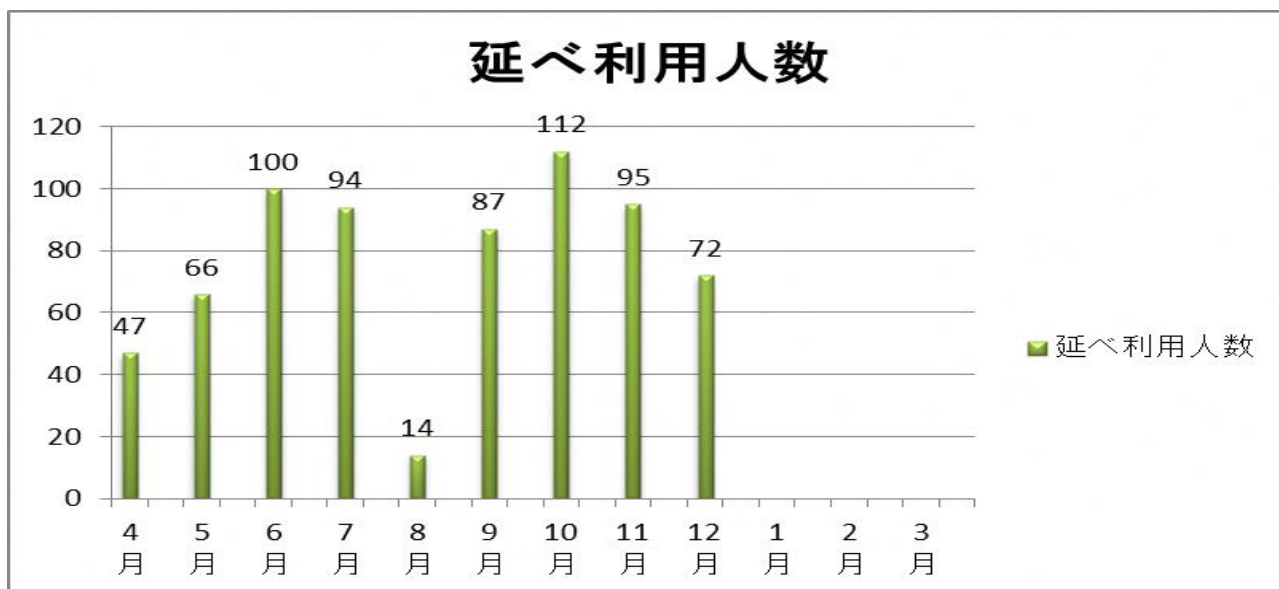
○テストの時には個室のようにせず全学年混ぜて受けている。

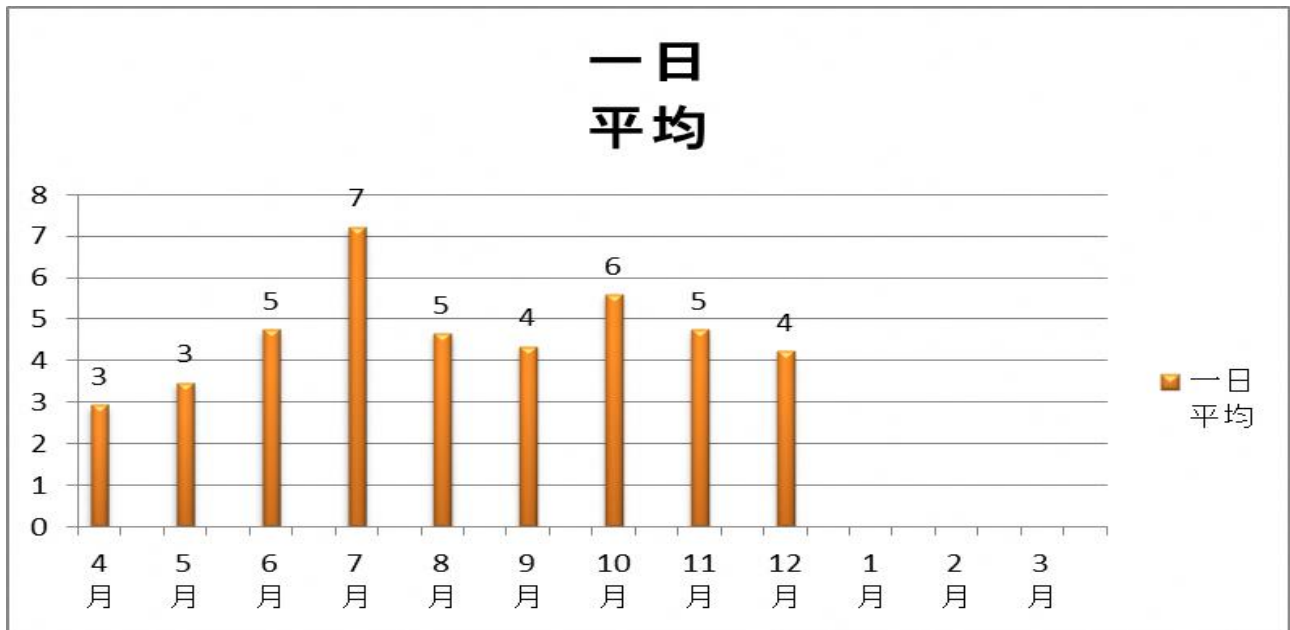
○それぞれの授業内容や取り組みが異なるため、ヘッドセットをチャレンジルームの全生徒に配布し音や声に配慮をしている。



○12月に入りクリスマスの掲示物を作ってもらおうと授業で作り始めたところ、普段は個室で過ごしお互いに距離を感じている生徒同士が自然と修学旅行などの話になり次第に受験や二年生の頃の話になり、「掲示物を作る」という一つの目標に向かいお互いに協力したり案を出し合ったりする姿がみられるようになり、それ以降はお互いの距離はなくなり元気な声でお互いに話すようになりその日を境に自分のクラスへ行くことができるようになった生徒もいる。

2022年度チャレンジルーム利用状況												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日数	16	19	21	13	3	20	20	20	17			
延べ利用人数	47	66	100	94	14	87	112	95	72			
一日平均	3	3	5	7	5	4	6	5	4			





4 成果

- 学校への登校に困難を示す生徒や登校しぶりのある生徒が安心して過ごせる居場所を作ること
で、休みが減り、登校できるようになった生徒が増えた。
- 個別の相談会を行うことで本人や保護者の願いに添った支援を考え、実践することができた。ま
た、それにより自分の意志を伝えられる生徒が増えた。
- 生徒同士が交流する活動を取り入れることで、コミュニケーション力を育むことが出来た。
- 自立活動を通して一緒に制作等を行い、達成感を味わうことで笑顔が増え、自己肯定感を育むこ
とができた。
- 少しずつ学級との関わりが増え、実際に学級復帰をすることが出来た生徒もいる。
- 「〇〇の時間に教室へ行く」など自分で選んで教室に行く目標を見つけて行動できる生徒が増え
た。
- 技能教科（音楽・美術）、5教科の先生方が空き時間等を利用し、学習指導に当たった。

5 課題

- チャレンジルームの利用を停止せざるを得ないケースもあったので、利用の申し込みの手順や利
用目的の確認などを丁寧に行うようにしていきたい。
- 1人ひとりの生徒の学習や生活の課題に合わせた対応を行う必要があるが、まだ不十分である。
- 4月に一度だけしか入室していない生徒がいたので、改善したい。
- チャレンジルームの学習指導に週に1回でも各教科を時間割に組み込んでいけるようにしたい。